

私と神戸

文 高山なおみ
Takayama Naomi

画 浅妻健司

私は今、神戸に住んでいます。

長い間東京で暮らしていましたが、思い切って引越してきました。六甲山のふもとにある六甲という町に住むようになって、もうじき四年になります。

この小さな町には、私を知っているだけでもキリスト教の教会が四つあります。珈琲の自家焙煎のお店や美容院にも、歩いているとなぜかよく出会います。どうしてなんだろう。

整骨院や鍼灸院が多いのは、「坂のせいやと思います」と、六甲生まれ六甲育ちの友人が教えてくれました。

そう、私の住んでいるマンションも、びっくりするほど急な坂の上に建っているんです。いちばん近いコンビニとパン屋さんへは、海を見下ろしながら坂を下って二十五分。スーパーまでは直進なので二十分。郵便ポストがその途中にふたつ、通るたびにお参りを欠かさない、かわいらしい神社がひとつ。

坂を下りたら、当然上ってこないとならないので、用事がない限り、私はほとんど家にいます。何をしているかというと、パソコンに向かって書き物の仕事です。

一日中家にいてもちつとも気づまりにならないのは、乗ります。チョコレート色の車体に緑色の座席が落ち着いた雰囲気列車で、私は山が見える側のシートに座るのが好きです。六甲の山々は、季節を追っていろいろな色合いを見せてくれます。

学校帰りの小学生が乗ってくる時間も好き。お揃いのブレザーを着た、おしゃまな女の子たちの会話に耳を傾けることもあるし、読書に夢中の子の本を、気づかれないようそっと覗き込むこともあります。

お洒落をしたおばあちゃんたちが、神戸弁でおしゃべりしているのも、いいなあと思いつつ聞いています。同じ関西弁でも大阪や京都とは違って、のんびりしているのです。

とつぜん料理の話になりますが、兵庫の友人たちの作るごはんはみな薄味で、新鮮な海の幸や、みずみずしい野菜の持ち味をいかしたやさしい味つけ。私もすっかり慣れ親しんだその味は、独特のあたたかみを持って耳に届く神戸弁と重なります。「してはる」などと、動詞の後ろに「はる」をつけるところがとくに好き。「おみかん」とか「お大根」とか「お布団」とか、何にでも「お」をつけるのもいいなあと思う。どちらも敬いの気持ちを感じます。

そういうえば、阪急電車の中で酔っぱらっている人を見たことはありません。東京では私もよく飲み屋に出掛けていたけれど、神戸の人たちは、夜遅くまでお酒を飲んで騒いだり、くだを巻いたりしないような気がする。お店も早々と閉まってしまふし。そういうところもいいなあと思う。なんか、品があつて。

南の窓いっぱい海と空が見えるし、正午と夕方六時には、教会の鐘が鳴り響くからでしょう。カラーンカラーン、カラーンカラーン。ときおり風によって、汽笛がボーッと鳴ることもあります。海からの風は、旅を連想させます。

冬は、陽の出が七時ごろなので、このところ私は、大阪湾の向こうの山から顔を出す、大きな太陽を眺めるのが日課になっています。

今朝は六時に目覚めました。カーテンを開けると、真上の空には三日月がまだ光っていました。街の夜景も瞬いています。藍色というのか、紫紺色というのか、空の高いところは暗いのに、山並みに沿って、茜色に輝く帯がすーっと伸びていました。

ラジオのピアノ曲を聴きながらベッドに横たわり、目をつむって、ときどき起き上がっては待ちました。そのうち、火の玉みたいなオレンジの欠片が見えたかと思うと、そこからは速い速い。ちよつと目をそらしたすきに眩しい光がぐんぐんと現れ、裸眼ではもう見ていられない。それでようやく安心し、起きました。

そんなふうに、ほとんどの時間を家で過ごしている私ですが、三宮のデパートに買い物にいったり、大阪や京都まで遠出するときには、六甲駅から阪急電車に

引越してきたばかりのころ、湾の向こう側を西に向かって滑る白く光った船を、イルカみたいだなあと思いつつ眺めていました。

いつも同じくらいの時間に光るのは、傾きかけた太陽に照らされているからだなんだんに分かってきて。そのうち、東に見える白い橋の近くの船着き場から出航していることを知り……ついに去年の夏、その船に乗って、九州の友人の家に行ってきました。六甲アイランドというその船着き場から、夕方の四時ごろ出航すると、翌朝七時には門司港に着くのです。以前はそこから、沖繩に行ける直行便も出ていたという話。

このマンションを下見に来たとき、「神戸は港町やから、よそ者にもやさしいんですわ」と、不動産屋のお兄さんが言っていました。

大きく開けた海を眺めながら、その言葉を肌で感じる日々を送る私は、近ごろ神戸弁がうつってきました。だって、好きやから。

たかやま・なおみ 料理家・文筆家。1978年、静岡県生まれ。『野菜だより』『ロシア日記』『料理』高山なおみ『たべもの九十九』など著書多数。活動の場を東京から神戸に移し、『どもるとだっく』『たべたあ』(共に絵・中野真典)など絵本制作にも取り組んでいる。新刊は『帰ってきた日々ごはん⑥』、写真絵本『おにぎりをつくる』。

